

1814 桜島火山におけるマグマ活動発展過程の研究―地域との連携
担当者 井口正人 (iguchi@svo.dpri.kyoto-u.ac.jp)

・実施機関（代表機関）名

京都大学防災研究所

・研究目的

第1次から第7次までの火山噴火予知計画および現計画において火山噴火の前兆として多くの前兆が捉えられ、これらの観測事実に基づいて、例えば、2000年の有珠山噴火では、噴火発生前に避難が行われたが、今でも一般住民は地震と同様に火山噴火も突然発生し、予知はできないと考えている人が依然として多い。これは、研究者側の社会への情報発信力がきわめて弱かったこと、また、そのことに努力を払ってこなかったことによる。地方自治体の避難計画が策定されているのは桜島と霧島のみであり、火山防災計画への意識は低い。

本研究では、桜島火山をモデルケースとして、地方自治体の防災担当者、一般住民、報道機関など様々な層を対象に、これまでの火山噴火予知研究の成果を知ってもらうためのセミナーを定期的開催する。そのうえで、これまでの予知研究の成果を、自治体の地域防災計画や住民の防災意識へ反映することの可能性を検討するとともに、よりよい地域防災計画策定や危機的状況における住民行動の改善のためにはどのような研究成果や火山活動に関する情報が必要であるか、予知研究のニーズ調査を行う。さらに、「1. 地震・火山現象の解明のための研究」、「2. 地震発生・火山噴火の予測のための研究」、「3. (4) 即時予測手法の研究」の成果を年次ごとに公表し、防災対策の視点から研究の仕分けを行う、また、必要とされる研究項目を推進するため、フィードバックをかける。